

東北公益文科大学における地域との連携について

1. 設立のきっかけ、公益学とは

公益のふるさと 庄内

- 約250年前、三代 本間光丘が私財を投じて、クロマツの防砂林の植林を行うなど、多くの公益的遺産が残る。
- このような庄内の歴史と事跡、試行と革新、自然や景観を背景に、公益学を究めるとして、H13.4に、山形県と庄内の14市町村(当時)が、公設民営方式で『東北公益文科大学』を開設。
- 自分自身の幸せから一歩進めて、みんなのために役立つことを『公益』といい、これからの社会で重要となるこのテーマを研究・実践する学問が『公益学』。

私財を投じた防砂林整備



庄内浜に広がるクロマツ林



クロマツ林での森林教室

公益の源流を歩く



まちづくりの歴史を通じて、公益の考え方や地域の未来を学ぶ

2. 地域との連携による具体的な取組

大学まちづくりへの挑戦

- 門も塀もなく、市民が学生とともに自由に散策できるような**地域に開かれた大学づくり**に挑戦。

- さかた街なかキャンパス**: 市内の中心の空き店舗を活用して設置し、大学の研究教育活動の発表、展示・ワークショップや市民参加型のアートプロジェクト会場等、サテライトキャンパスとして活用。

- 「飛島における活動」**: 住民の高齢化により労働力が不足し、漂着ゴミなどの問題を抱える飛島で、クリーンアップ作戦、『ごどいも』『天保そば』の継承、県内大学の夏季合同合宿、小中学生対象の体験学習支援などの活動を展開。

- 学内に**市民のための公益研修センター**を開設するとともに、一般市民が大学の授業で体験学習する**市民体験講座**、講演会、シンポジウム、コンサートなどを開催。

垣根のないキャンパス



市民が自然に出入りし、自由に図書館、食堂を利用

サテライトキャンパスの開設



大学の活動拠点と商店街と協働したまちの賑わい創出

教員・学生の自主的な活動



庄内地域と協働による「飛島クリーンアップ作戦」

公開講座や講演会の開催



市民と教員・学生と一緒に考え、語り合う場を提供

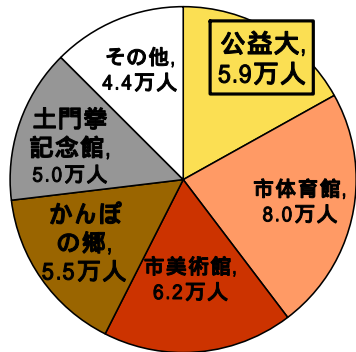
東北公益文科大学における地域との連携について

3. 連携の成果や大学側のメリット

連携の成果

- 図書館や食堂など、**大学施設の市民利用率が高い。**
- **市民との協創協働の活動**が、点から線、線から面へと広がってきた。

市の施設に肩を並べる利用者数



(H16の周辺文化施設利用者との比較)

大学側のメリット

- **特色ある実践的な教育・研究**：福祉、環境などの分野で、政治や行政の世界だけでなく、企業や市民社会全体の参加も得て取り組んでいくことが求められており、そのような事例研究を行うことができる貴重な場が提供されている。

福祉マップの作成



障害者の視点でまちを点検

庄内全域を対象としたフィールドワーク



酒田警察署と連携した巡回パトロール

市民とともに育むキャンパス



市民と協働しキャンパス内の「遊心の森」を再生

4. 今後の展開と行政に対する期待

大学と市民との窓口

- 大学の活動を市民に知ってもらうための窓口や大学と市民・NPOなどが連携していく場として、**地域協創センター**を設置することが必要。
- 自主的、内発的なボランティアをさかんにするため、**学習会や交流会**を積極的に開催したい。
- **実践的教育により、学生を育てる力が高まっている**ことを広くPRしたい。

連携窓口の創設



地域と大学の橋渡し拠点

子供たちとの交流



街なかキャンパスにおける活動

行政に対する期待

- **大学・地域の全国ネットワーク**：地方で、苦勞しながら取り組んでいる大学や地域の取組について、**情報交換や人材交流ができる場を提供していただくと、活動を継続する上での支えとなる。**
- 大学まちづくりを**全国レベルでPRできる機会の確保。**

『週刊エコノミスト』誌掲載の「学生を育てる力」の高い大学で、全国18位の評価

『週刊エコノミスト』誌(毎日新聞社刊、毎週月曜日発売)の7月12日号において、就職率で見た「学生を育てる力」への取り組みのコーナーで、「学生を育てる力」の高い大学101のうち、本学が18位の評価を受けました。

また、同社調べの主要389大学の就職率では46位にランキングされ、本学第1回卒業生の就職状況は高い評価を得ております。

東北から俯瞰せよ。

この美しい地域全体が私たちのキャンパス。